



日本中のおかあさんが直面した戦争という現実。おかあさんは「お国のために」と、出征する息子をただ見送ることしかできませんでした。
2015年に戦後70年記念作品として制作されました。あの時代を忘れてはならないという強い願いを込めて。



40年前から教科書で愛される、国民的児童文学が感涙の映画化。

2018年12月12日（水）
厚木市文化会館小ホール

厚木市恩名1-9-20 電話046-225-2588

上映時間 114分（3回上映）

1回目：10：30（10：00）

2回目：14：00（13：30）

3回目：18：00（17：30）

（ ）は開場予定時刻

前売券：900円（学生・障がい者・付添い者 400円）

当日券：1200円（学生・障がい者・付添い者 600円）

前売券 厚木市文化会館（チケット予約センター 電話 046-224-9999）

取扱先 有隣堂厚木店（厚木市中町2-6 電話 046-223-4111）

せいきょうあつぎ診療所（厚木市水引2-8-29 電話 046-223-3325）

問い合わせ

山本 080-1172-1094

市川 080-3423-1797

樽石 046-228-6931

主催：厚木市九条の会ネットワーク



原作は児童文学者、大川悦生(98年没)著「おかあさんの木」。発表から45年余り、その間幾度も小学校中学年から高学年の国語教科書に採用されてきたお話です。

昭和12年(1937年)日中戦争から始まる太平洋戦争のために、7人の息子を次々と兵隊にとられていくミツ。息子が出征するたびに桐の苗木を植えてひたすら無事を祈る母の姿は、戦争がもたらす悲しみを子供たちに訴え続けてきました。



主人公・ミツを演じるのは鈴木京香。「いつか、“日本のおかあさん” 然とした母親役を演じてみたいと思っていた」と、25年余りの女優人生の中で節目の役に挑んでいます。さらに、ミツの次男・二郎役に三浦貴大、亡き夫の同僚役に田辺誠一、その娘・サユリ役に志田未来、松金よね子、大杉漣、物語の語り部となる現代パートのサユリ役に奈良岡朋子、と演技派の豪華キャストが集結しました。監督は『がんばっていきまっしょい』『解夏』など丁寧な心理描写に定評のある磯村一路。

きまっしょい』『解夏』など丁寧な心理描写に定評のある磯村一路。

2015年6月公開 東映 上映時間114分
原作：大川悦生
監督・脚本：磯村一路

